

( 続紙 1 )

京都大学	博士 (地域研究)	氏名	相原 進
論文題目	エチオピアにおける伝統的ダンスの継承と新たな表現の創造		
(論文内容の要旨)			
<p>本論文は現代アフリカにおける伝統的ダンスの継承と新たな表現の創造について、エチオピア国立劇場(Ethiopian National Theater)という場を通じて実践される表現活動に焦点をあててその特徴を描きだし、現代的な意義を明らかにしている。</p> <p>エチオピアでは、帝政時代から国の文化的な政策の一環として国内各地の各民族のダンスを記録し、上演することがおこなわれており、その事業は二つの全く異なる政体を越えて継続してきた。1991年にはじまる現政権のもとでは、従来のアムハラ民族のダンスを中心にした事業から、少数民族のダンスの記録と上演にも力をいれるようになってきている。本来、伝統的ダンスは、定式化される側面と、文脈に応じて踊り手が多様な表現を創造する両方の性質を兼ね備えている。本論文は、近年、首都アジスアベバを中心にレストランやホテルで観客にむけて演じられるダンスについてもとりあげている。</p> <p>第1章では、エチオピアの伝統的ダンスおよび芸能についての先行研究を批判的に検討し、ダンスの表現とダンスがおこなわれる場と踊り手の構成する社会集団に着目するという本論文の視座を示している。また、日本芸能の「型」において用いられるフォームとスタイルという分析概念をエチオピアの伝統的ダンスの分析に応用する可能性についても論じている。</p> <p>第2章では、国立劇場の伝統的ダンスを演じる組織の構成とそれぞれの部門の活動を示し、個々の演目が創作される過程や演出プログラムの組み立て方の概要を示した。演目の創作には、民族・地域ごとに演目を立てることと、踊り手たちのあいだに共有されている基本的な動作の組み合わせによっておこなうという2つの特徴があることをダンスの動作の詳細な記述によって明らかにしている。</p> <p>第3章では、上記の2つの特徴がエチオピア国立劇場の中だけでなく、アジスアベバにおいて伝統的ダンスを見せる場においても共通している背景について、エチオピアにおけるダンス教育の歴史と関連づけて明らかにしている。特に、ハンガリー人のダンス研究者ティボール・ヴァダシィが1969年から4年間実施した講義について、文献および受講者への聞き取り調査をつうじてその内容を記述し、ヴァダシィの始めた教育方法が現在のエチオピアにおける伝統的ダンス教育に受け継がれており、いまなお大きな影響を与えていることを明らかにしている。</p> <p>第4章は、現在国立劇場に所属する踊り手たちのこれまでのダンス経歴を示して、第3章で明らかにしたダンス創作の特徴とその歴史的経緯と関連させながら、彼らがダン</p>			

スを職業として目指す場合に、どのようにして技術を習得し、演目を創作する方法を学んでいくのかについて明らかにしている。

第5章は、2018年の国立劇場の新年公演で演じられた新演目「シダマ」の創作の過程に着目している。新演目の創作にあたっては、踊り手だけでなく楽器の演奏者、調査部門の職員、演出家など国立劇場に所属するさまざまな人びとがかかわる。その過程にかかわる人びとの実践を追い、踊り手どうしのやり取りを描写することによって、新演目が創作されていく過程を示している。

第6章では、アジスアベバ市内で観光客などを相手にホテルやレストランで演じられるダンスに着目し、国立劇場とは異なる方針で演出がおこなわれている様子を記述している。国立劇場では、エチオピア国内の諸民族が継承してきた伝統的ダンスについて調査部門が記録した資料をもとに演目を創作し、披露しているのに対して、レストランなどでは、個々の民族に特徴的なダンスや衣装を踏まえつつ、観客の反応を伺いながら、観客を楽しませるために表現に手を加えることが求められることを見出している。レストランのダンサーや番組の制作者たちの実践を手がかりに、観光化にともなって表現の多様化がすすんでいる実態を明らかにしている。

第7章では、第6章までに明らかにした事実とその考察をふまえて、アジスアベバにおけるダンス表現の多様性が生じる様態について論じている。ここではダンス表現の多様性を、演目、基本的な動作、そして基本的な動作の組み合わせ、の3点に類別し考察している。演目の多様性については、2018年に国立劇場で創作された新演目「アリ」が、アジスアベバのレストランに伝播していく過程を例に論じている。基本的な動作の多様性については、個々の踊り手の表現が、ダンスが演じられる場によって変わることに注目し、その差異を聞き取り調査と映像によるモーション・キャプチャの分析によって明らかにしている。基本的な動作の組み合わせに多様性が生じる事例については、近年アジスアベバ市内のレストランにおいて活動するアイドルグループのダンス実践をとりあげて考察している。

終章では、エチオピアの国立劇場を中心に創造されてきたダンスについて特徴的な「基本動作」の概念と、エチオピア独自のフォームとスタイルという概念の対応と適合性について論じ、両者の関係性が、新たな表現が創造される源泉となっていると結論している。